

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS
- BLANK PAGES

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

#2

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1 9 9 9 年 8 月 2 0 日

出 願 番 号

Application Number:

平成 1 1 年 特 許 願 第 2 3 3 3 2 8 号

出 願 人

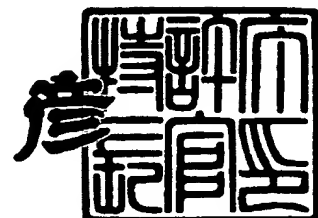
Applicant (s):

富士写真フイルム株式会社

2 0 0 0 年 5 月 1 9 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

近 藤 隆 彦



出 証 番 号 出 証 特 2 0 0 0 - 3 0 3 7 7 8 7

【書類名】 特許願

【整理番号】 99095

【提出日】 平成11年 8月20日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06T 11/60

【発明の名称】 データ通信システムならびにデータ通信システムを構成するサーバおよびクライアント・コンピュータ

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県朝霞市泉水三丁目 1 1 番 4 6 号 富士写真フイルム株式会社内

 【氏名】 椎森 佳子

【特許出願人】

 【識別番号】 000005201

 【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100080322

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 牛久 健司

【選任した代理人】

 【識別番号】 100104651

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 井上 正

 【連絡先】 0 3 - 3 5 9 3 - 2 4 0 1

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 006932

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9800030
【包括委任状番号】 9800031
【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ通信システムならびにデータ通信システムを構成するサーバおよびクライアント・コンピュータ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 互いにデータ通信可能なクライアント・コンピュータとサーバとから構成されるシステムにおいて、

上記クライアント・コンピュータが、

上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを上記サーバに送信する第 1 のフォント送信手段を備え、

上記サーバが、

上記クライアント・コンピュータの上記第 1 のフォント送信手段から送信された上記フォント情報データを受信する第 1 の受信手段、

上記第 1 の受信手段において受信したフォント情報データによって表されるフォントにもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中からクライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索するフォント検索手段、および

上記フォント検索手段によって探し出されたフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コンピュータに送信する第 2 のフォント送信手段、

を備えたデータ通信システム。

【請求項 2】 上記クライアント・コンピュータが、

上記クライアント・コンピュータの OS を表す OS データを上記サーバに送信する OS データ送信手段をさらに備え、

上記サーバが、

上記クライアント・コンピュータの上記 OS データ送信手段から送信される上記 OS データを受信する OS データ受信手段をさらに備え、

上記フォント検索手段が、

上記 OS データ受信手段によって受信した OS データによって表される OS と上記第 1 の受信手段によって受信した上記フォント情報データによって表される

上記フォントとにもとづいて上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索するものである、

請求項 1 に記載のデータ通信システム。

【請求項 3】 上記サーバが、出力可能なフォントを OS に対応して報知する第 1 の報知手段をさらに備えた請求項 2 に記載のデータ通信システム。

【請求項 4】 上記クライアント・コンピュータが作成する文書の種類を選択する選択手段、および

上記選択手段によって選択された文書の種類を表す選択データを上記サーバに送信する選択データ送信手段をさらに備え、

上記サーバが、

上記クライアント・コンピュータから送信された文書の選択データを受信する選択データ受信手段をさらに備え、

上記フォント検索手段が、

上記選択データ受信手段によって受信した選択データによって表される文書の種類と上記第 1 の受信手段によって受信したフォント情報データによって表されるフォントとにもとづいて、上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索するものである、

請求項 1 に記載のデータ通信システム。

【請求項 5】 上記サーバが、出力可能なフォントを上記文書の種類に対応して報知する第 2 の報知手段をさらに備えた請求項 4 に記載のデータ通信システム。

【請求項 6】 サーバと互いにデータ通信可能なクライアント・コンピュータにおいて、

上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを上記サーバに送信し、

上記サーバが、上記クライアント・コンピュータから送信されたフォント情報データによって表されるフォントにもとづいて上記サーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索し、探し出したフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コ

ンピュータに送信するものであり、

上記サーバから送信されたフォント情報データを受信する受信手段、および
上記受信手段によって受信したフォント情報データによって表されるフォント
を報知する報知手段、

を備えたクライアント・コンピュータ。

【請求項 7】 クライアント・コンピュータと互いにデータ通信するサーバに
おいて、

上記クライアント・コンピュータから送信され、上記クライアント・コンピュ
ータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを受信する受信手段

上記受信手段によって受信したフォント情報データによって表されるフォント
にもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアン
ト・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索する検索手段、および

上記検索手段によって探し出されたフォントを表すフォント情報データを上記
クライアント・コンピュータに送信する送信手段、

を備えたサーバ。

【請求項 8】 クライアント・コンピュータと互いにデータ通信するサーバに
おいて、

上記クライアント・コンピュータから送信され、上記クライアント・コンピュ
ータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを受信し、

受信したフォント情報データによって表されるフォントにもとづいて、上記サ
ーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアント・コンピュータにお
いて出力可能なフォントを検索し、

探し出されたフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コンピ
ュータに送信する、

サーバの制御方法。

【請求項 9】 サーバと互いにデータ通信可能なクライアント・コンピュータ
において、出力可能なフォントを表すフォント情報データを上記サーバに送信し
、上記サーバが、上記クライアント・コンピュータから送信されたフォント情報

データによって表されるフォントにもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索し、探し出したフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コンピュータに送信する、そのようなクライアント・コンピュータを制御するためのプログラムであって、

上記サーバから送信されたフォント情報データを受信させ、

受信したフォント情報データによって表されるフォントを報知するように上記クライアント・コンピュータを制御するプログラムを格納したコンピュータが読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【技術分野】

この発明は、互いにデータ通信可能なクライアント・コンピュータとサーバとから構成されるシステム、そのようなシステムを構成するクライアント・コンピュータおよびサーバ、サーバの制御方法ならびにクライアント・コンピュータを制御するためのプログラムが格納された記録媒体に関する。

【0002】

【発明の背景】

ネットワークの整備にともない、クライアント・コンピュータとサーバとが互いに通信しながら、文書（画像を含んでもよい）を作成することが可能となってきた。クライアント・コンピュータのユーザが文書を作成する場合には、クライアント・コンピュータにおいて使用可能なフォントが用いられる。サーバのオペレータが、クライアント・コンピュータのユーザからの指示にしたがって文書を作成するときにはサーバにおいて使用可能なフォントが用いられる。

【0003】

クライアント・コンピュータにおいて使用可能なフォントとサーバにおいて使用可能なフォントとは一致しないことが多い。このため、クライアント・コンピュータにおいて特殊のフォントを用いて文書を作成しても、サーバにおいてそのフォントを用いて文書を作成することができないことがある。

【 0 0 0 4 】

【発明の開示】

この発明は、クライアント・コンピュータとサーバとの間でデータ通信をしながら文書を作成する場合に、クライアント・コンピュータとサーバとの両方において使用可能なフォントを用いるようにすることを目的とする。

【 0 0 0 5 】

この発明によるデータ通信システムは、互いにデータ通信可能なクライアント・コンピュータとサーバとから構成されるものである。

【 0 0 0 6 】

上記クライアント・コンピュータは、上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを送信する第 1 のフォント送信手段を備える。

【 0 0 0 7 】

上記サーバは、上記クライアント・コンピュータの上記第 1 のフォント送信手段から送信された上記フォント情報データを受信する第 1 の受信手段、上記第 1 の受信手段において受信したフォント情報データによって表されるフォントにもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中からクライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索するフォント検索手段、および上記フォント検索手段によって探し出されたフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コンピュータに送信する第 2 のフォント送信手段を備える。

【 0 0 0 8 】

この発明は、上記サーバの制御方法も提供している。すなわち、この方法は、クライアント・コンピュータと互いにデータ通信するサーバにおいて、上記クライアント・コンピュータから送信され、上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを表すフォント情報データを受信し、受信したフォント情報データによって表されるフォントにもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを検索し、探し出したフォントを表すフォント情報データを上記クライアント・コンピュータに送信するものである。

【 0 0 0 9 】

この発明は、上記クライアント・コンピュータを制御するためのプログラムを格納した記録媒体も提供している。

【 0 0 1 0 】

この発明によると、上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントを表す上記フォント情報データが上記サーバに送信される。

【 0 0 1 1 】

上記サーバにおいて上記フォント情報データが受信され、受信された上記フォント情報データによって表されるフォントにもとづいて、上記サーバにおいて出力可能なフォントの中から上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能なフォントが検索される。したがって、上記クライアント・コンピュータと上記サーバとの両方のいずれにおいても出力可能なフォントが探し出されることとなる。

【 0 0 1 2 】

探し出されたフォントを表すフォント情報データは、上記サーバから上記クライアント・コンピュータに送信される。

【 0 0 1 3 】

上記クライアント・コンピュータにおいて、受信した上記フォント情報データにより表されるフォントを用いて、文書を作成することにより、上記クライアント・コンピュータおよび上記サーバのいずれにおいても出力可能なフォントをもつ文書を作成することができる。

【 0 0 1 4 】

作成された文書を表すデータは、たとえば、上記クライアント・コンピュータから上記サーバに送信され、上記サーバにおいて印刷される。フォントは、上記クライアント・コンピュータおよび上記サーバのいずれにおいても出力可能なものが用いられているから、上記クライアント・コンピュータにおいて出力される文書のフォントと上記サーバにおいて出力される文書のフォントとは同じものとなる。

【 0 0 1 5 】

上記クライアント・コンピュータのOS (operating system) を示すデータを上記サーバに送信するようにしてもよい。

【0016】

上記クライアント・コンピュータのOSと上記サーバのOSとが一致しない場合であっても、上記クライアント・コンピュータにおいて使用可能なフォントを上記サーバにおいて検出することができる。

【0017】

上記サーバにおいて、出力可能なフォントをOSに対応して報知するようにしてもよい。

【0018】

上記クライアント・コンピュータにおいて、作成する文書の種類を選択し、選択された文書の種類を表す選択データを上記サーバに送信すると好ましい。

【0019】

この場合には、上記クライアント・コンピュータから送信された文書の選択データを上記サーバにおいて受信し、受信した選択データによって表される文書の種類と上記クライアント・コンピュータにおいて出力可能な上記フォントとにもとづいて上記クライアント・コンピュータにおいて出力するフォントを検索することとなる。

【0020】

文書の種類に適したフォントを用いて文書を作成することができる。

【0021】

上記サーバが、出力可能なフォントを上記文書の種類に対応して報知するようにしてもよい。

【0022】

【実施例の説明】

図1は、この発明の実施例を示すもので、画像編集システムの全体構成を示している。

【0023】

画像編集システムは、クライアント・コンピュータ1とサーバ30とがインター

ネットを介して接続されることにより構成される。多数のクライアント・コンピュータ 1 がサーバ 30 と接続されるが、図 1 においては 1 台のみが図示されている。

【0024】

サーバ 30 には、高画質の画像を印刷することができる高画質プリンタ 31 が接続されている。

【0025】

サーバ 30 と通信しながら、クライアント・コンピュータ 1 のユーザは、画像を編集していく。

【0026】

この実施例による画像編集システムでは、編集画像に挿入されるテキストのフォントは、クライアント・コンピュータ 1 において出力可能なフォントとサーバ 30 において出力可能なフォントとの共通のものが用いられる。また編集画像の作成のサービスには、ポストカードの作成、名刺の作成およびポスターの作成のサービスがあり、各サービスごとに適したフォントが定まっている。さらにフォントは OS ごとに定まっている。したがって、クライアント・コンピュータ 1 のユーザはサーバ 30 において格納されているフォントのうち選択したサービスに該当し、かつクライアント・コンピュータ 1 の OS に該当するフォントを用いて編集画像に挿入されるテキストを作成することとなる。

【0027】

図 2 は、クライアント・コンピュータ 1 の電氣的構成を示すブロック図である。

【0028】

クライアント・コンピュータ 1 の全体の動作は、CPU 2 によって統括される。

【0029】

クライアント・コンピュータ 1 には、ROM 3、データを一時的に記憶するための RAM 4、画像編集のために表示装置 14 に画像を表示させるための VRAM 12、ROM 3 からのデータの読み出しならびに RAM 4 および VRAM 12 からの

データの書き込みおよび読み出しを制御するためのメモリ・コントローラ15が含まれている。VRAM12から読みだされた画像データがDAコンバータ13に与えられることにより、アナログ映像信号に変換され、表示装置14に画像が表示される。

【0030】

また、クライアント・コンピュータ1には、バス・コントローラ5、メモリ・コントローラ15およびタイマ16が接続されている。

【0031】

さらに、クライアント・コンピュータ1には、システムI/Oコントローラ6が接続されている。このシステムI/Oコントローラ6にはクライアント・コンピュータ1のユーザから操作指令を受け付けるためのキーボード7およびマウス8ならびに画像データ、プログラム等を読み取るためのCD-ROMドライブ9およびFDドライブ10ならびにインターネットと接続するためのモデム11が接続されている。

【0032】

クライアント・コンピュータ1には、外部I/Oコントローラ18が接続されている。この外部I/Oコントローラ18にはHDドライブ21が接続されている。HDドライブ21によってHD（ハードディスク：図示略）へのデータの書き込みおよびデータの読み出しが可能となる。CD-ROMに記憶されているプログラムがHDに書込まれる。HDに書込まれた実行プログラムを読みだすことによりクライアント・コンピュータ1によって後述の所定の処理が行われる。

【0033】

さらに、クライアント・コンピュータ1には、画像を印刷するためのプリンタ20およびこのプリンタ20を制御するためのプリンタ制御回路19が接続されている。

【0034】

サーバ30もクライアント・コンピュータ1とほぼ同じ構成を有しているが、サーバ30には、高画質プリンタ31が接続されるなど、一般にクライアント・コンピュータ1よりも高性能であることはいうまでもない。また、サーバ30においても

プログラムが格納されているCD-ROMが装填されることによりプログラムが読み取られ、そのプログラムにしたがってサーバ30が動作することはいうまでもない。

【0035】

図3は、サーバ30のハードディスクに格納されているファイルの一例を示している。

【0036】

サーバ30には、メニュー・ファイルと複数のフォント・ファイル（フォント・ファイル0、フォント・ファイル1、フォント・ファイル2およびフォント・ファイル3）と画像ファイルなどのその他の必要なファイルが格納されている。

【0037】

フォント・ファイル0には、サーバ30において用いることができるすべてのフォントを表すデータがOSごとに格納されている。

【0038】

フォント・ファイル1から3には、サーバ30において用いることができるすべてのフォントのうち、サービスに適したフォントを表すデータがサービスごとに格納されている。フォント・ファイル1には、サーバ30において用いることができるすべてのフォントのうちポストカードを作成するときに用いるのに好ましいフォントを表すデータがOSごとに格納されている。フォント・ファイル2には、サーバ30において用いることができるすべてのフォントのうち名刺を作成するために用いるのに好ましいフォントを表すデータがOSごとに格納されている。フォント・ファイル3には、サーバ30において用いることができるすべてのフォントのうちポスターを作成するのに好ましいフォントを表すデータがOSごとに格納されている。

【0039】

メニュー・ファイルには、サービスに適したフォントがフォント・ファイル1から3のうちどのフォント・ファイルに格納されているかを示すデータが格納されている。

【0040】

図 4 は、クライアント・コンピュータ 1 とサーバ 30 との間で行われる処理手順を示すフローチャートである。

【 0 0 4 1 】

クライアント・コンピュータ 1 のユーザによって、サーバ 30 が提供している画像編集サービスのホームページにアクセスされる（ステップ 41）。

【 0 0 4 2 】

クライアント・コンピュータ 1 とサーバ 30 とが接続されると、クライアント・コンピュータ 1 からの要求に応じて、サービス選択用ホームページ・データがサーバ 30 からクライアント・コンピュータ 1 に送信される（ステップ 51）。

【 0 0 4 3 】

クライアント・コンピュータ 1 において、サーバ 30 から送信されたサービス選択用ホームページ・データが受信される。すると、そのサービス選択用ホームページ・データによって表されるサービス選択用ホームページがクライアント・コンピュータ 1 の表示装置 14 の表示画面上に表示される（ステップ 42）。クライアント・コンピュータ 1 のユーザによって利用するサービスが選択される。ここでは、「ポストカード編集サービス」、「名刺編集サービス」および「ポスター編集サービス」のうちのいずれかのサービスがユーザによって選択される。

【 0 0 4 4 】

ユーザがサービスによってサービスが選択されると、選択されたサービスを示すデータとクライアント情報とがサーバ 30 に送信される（ステップ 44）。

【 0 0 4 5 】

図 5 は、クライアント情報を示している。

【 0 0 4 6 】

クライアント情報には、クライアント・コンピュータ 1 の OS を示す OS 情報とクライアント・コンピュータ 1 において使用可能なフォントを示すフォント情報とが含まれている。

【 0 0 4 7 】

図 4 に戻って、クライアント・コンピュータ 1 から送信された、選択されたサービスおよびクライアント情報とがサーバ 30 において受信される。サーバ 30 にお

いて、クライアント・コンピュータ 1 における画像編集処理において利用することができるフォントを示すフォント・リスト（図 6 参照）を作成する処理が行われる（ステップ 52）。このフォント・リスト作成処理について詳しくは後述する。フォント・リスト作成処理において作成されたフォント・リストを表すデータおよびクライアント・コンピュータ 1 のユーザによって選択されたサービスを行うための編集用ホームページを表すデータが、サーバ 30 からクライアント・コンピュータ 1 に送信される（ステップ 53）。

【 0 0 4 8 】

クライアント・コンピュータ 1 において、サーバ 30 から送信された編集用ホームページ・データおよびフォント・リスト・データが受信されると、クライアント・コンピュータ 1 の表示装置 14 の表示画面上に編集用ホームページが表示される（ステップ 45）。

【 0 0 4 9 】

図 7 は、編集用ホームページの一例を示している。

【 0 0 5 0 】

ここでは、クライアント・コンピュータ 1 のユーザが「ポストカード編集サービス」を選択したものと仮定する。もちろん、クライアント・コンピュータ 1 のユーザが他のサービスを選択したときにはその選択したサービスに応じた編集用ホームページが表示されるのはいうまでもない。

【 0 0 5 1 】

編集用ホームページには、次の各領域が含まれている。

【 0 0 5 2 】

作成メニュー領域 61

ポストカードの作成の順序を表示する領域である。次の各ボタン（領域）が形成されている。

「ユーザ画像 1」：ポストカードのテンプレートに合成すべき一駒目のユーザの画像を選択するときにユーザによってクリックされる領域である。

「ユーザ画像 2」：ポストカードのテンプレートに合成すべき二駒目のユーザの画像を選択するときにユーザによってクリックされる領域である。

「差出人情報」：ユーザの情報（住所、氏名など）を入力するときに、ユーザによってクリックされる領域である。

「あいさつ文」：ポストカードに挿入すべきテキストを入力するときにユーザによってクリックされる領域である。

「注文」：ポストカードの注文を行うときにユーザによってクリックされる領域である。

【0053】

補助領域62

ポストカードの作成の補助を行うための領域である。サーバ30にアクセスしたときに最初に表示されるページに戻るときにユーザによってクリックされる領域「HOME」，前のページに戻るときにユーザによってクリックされる領域「BACK」およびヘルプ機能を利用するときにユーザによってクリックされる領域「HELP」が含まれている。

【0054】

編集画像表示領域63

ユーザが編集している画像を表示する領域である。

【0055】

拡大縮小領域64

ユーザの画像を拡大または縮小するときにユーザによってクリックされる領域である。

【0056】

回転領域65

ユーザの画像を回転させるときにユーザによってクリックされる領域である。

【0057】

ユーザは、編集用ホームページを利用して、所望のユーザの画像をテンプレートに合成して画像を編集していく。テンプレートに画像が合成されるとユーザによって領域61内の「あいさつ文」がクリックされる。すると、クライアント・コンピュータ1の表示装置14の表示画面には、図8に示すあいさつ文入力ダイアログが現れる。

【0058】

あいさつ文入力ダイアログには、次の各領域が含まれている。

【0059】

挨拶文テキスト表示領域71

ユーザによって入力されたテキストが表示される領域である。

【0060】

フォント名表示領域72

サーバ30から送信されたフォント・リストに含まれるフォントのうち、ユーザが選択したフォントを表示する領域である。プルダウンすることによりフォント・リストに含まれるフォントが現れる。

【0061】

縦書横書指定領域73

入力されたテキストを縦書きにするか横書きにするかを指定する領域である。

【0062】

サイズ指定領域74

入力されたテキストのサイズを指定する領域である。

【0063】

斜体指定領域75

入力されたテキストを斜体で表すときにユーザによってチェックされる領域である。

【0064】

下線指定領域76

入力されたテキストに下線を引くときにユーザによってチェックされる領域である。

【0065】

色変更指定領域77

入力されたテキストの色を変更するときにユーザによってチェックされる領域である。

【0066】



影指定領域78

入力されたテキストに影をつけるときにユーザによってチェックされる領域である。

【0 0 6 7】

影色変更領域79

入力されたテキストの影の色を変更するときにユーザによってチェックされる領域である。

【0 0 6 8】

OK領域80

入力されたテキストを挨拶文として挿入するときにユーザによってクリックされる領域である。

【0 0 6 9】

キャンセル領域81

入力した挨拶文などの情報をキャンセルするときにユーザによってクリックされる領域である。

【0 0 7 0】

ユーザによってテキストが入力され、OK領域80がクリックされると、あいさつ文入力ダイアログが消える。入力されたテキストが編集画像（編集画像表示領域63に表示される）の所定の場所に挿入される。

【0 0 7 1】

図9は、ユーザによって画像編集が行われることにより生成される編集情報ファイルを示してゐる。

【0 0 7 2】

編集情報ファイルには、テンプレート情報、合成画像情報およびテキスト情報が含まれる。

【0 0 7 3】

テンプレート情報は、編集画像を構成するテンプレートについての情報である。このテンプレート情報には、ベース画像情報およびマスク画像情報が含まれている。

【0074】

ベース画像情報は、テンプレート画像の背景画像についての情報である。カテゴリ、画像の格納場所およびアスペクトを表すデータが格納されている。

【0075】

マスク画像情報は、テンプレート画像においてユーザの画像を合成する領域を規定する情報である。カテゴリ、画像の格納場所およびアスペクトを表すデータが格納されている。

【0076】

合成画像情報には、ユーザ画像情報、合成位置情報およびクリップアート情報が含まれている。

【0077】

ユーザ画像情報は、テンプレートに合成するユーザ画像についての情報である。カテゴリ、画像の格納場所および回転の程度が格納されている。

【0078】

合成位置情報は、ユーザ画像の合成位置を示す情報である。ユーザ画像の描画開始を表すX座標およびY座標ならびにユーザ画像の描画幅および高さが格納されている。

【0079】

クリップアート情報は、編集画像に挿入されるクリップアートについての情報である。クリップアートの画像の描画開始位置を表すX座標およびY座標ならびにクリップアートの描画幅および高さが格納されている。

【0080】

テキスト情報には、合成位置情報、スタイル情報、テキストの内容が含まれている。

【0081】

合成位置情報には、テキストの描画開始位置を表すX座標およびY座標ならびにテキストの描画幅および高さが格納されている。

【0082】

スタイル情報には、ユーザによって選択されたフォント名、フォント・サイズ

，テキストの色，斜体字にするかどうか，下線の有無などのあいさつ文入力ダイアログによって入力された情報が格納されている。

【 0 0 8 3 】

テキストの内容に，あいさつ文入力ダイアログによって入力されたテキストが格納されている。

【 0 0 8 4 】

編集用ホームページにおいて画像を編集することにより，このような編集情報ファイルが生成されることとなる。

【 0 0 8 5 】

再び，図4にもどって，編集用ホームページにおいて画像の編集処理が終了すると（ステップ46），ユーザによって作成メニュー領域の「注文」領域がクリックされる。すると印刷依頼となる（ステップ47）。ユーザによって編集された画像に用いられるユーザ画像および作成された編集情報ファイルがクライアント・コンピュータ1からサーバ30に送信される。

【 0 0 8 6 】

サーバ30において，クライアント・コンピュータ1から送信されたユーザ情報，編集画像ファイルが受信されると，編集画像ファイルに格納されている各情報にもとづいてクライアント・コンピュータ1のユーザが編集した情報と同じ画像が編集される（ステップ54）。また，ユーザが入力したテキストもその編集画像において，指定されたフォントを用いて挿入される。ユーザが指定したフォントは，クライアント・コンピュータ1において使用可能なフォントであり，かつサーバ30において使用可能なフォントであるので，サーバ30において，クライアント・コンピュータ1のユーザが使用したフォントを用いて編集画像を印刷することができる（ステップ55）。

【 0 0 8 7 】

印刷された編集画像は，たとえば，郵送によってクライアント・コンピュータ1のユーザの自宅に届けられる。

【 0 0 8 8 】

図10は，フォント作成処理の処理手順を示すフローチャートである。この処理

は、図4のステップ52の処理に対応するものである。

【0089】

クライアント・コンピュータ1から送信されたサービスを表すデータとクライアント情報とがサーバ30において受信されると（ステップ91），サーバ30のメニュー・ファイルが参照され，クライアント・コンピュータ1のユーザによって選択されたサービスに対応するフォント・ファイルが探し出される（ステップ92）。たとえば，ユーザによって選択されたサービスが「ポストカード作成」サービスであるとする，フォント・ファイル1が見つげ出される。

【0090】

サービスに対応したフォント・ファイルが見つげられると，その見つげられたフォント・ファイルの中からクライアント情報に含まれるOS情報によって表されるOSと同じOSに分類されているフォント名が探し出される（ステップ93）。OS情報がOS1を示している，フォント・ファイルの中からOS1に分類されている「MSゴシック，MS明朝，DFP行書体およびDFP中太楷書体」が探し出される。

【0091】

さらに，探し出されたフォント名の中から，クライアント・コンピュータ1から送信されたフォント情報によって表されるフォントと同じフォントが探し出される（ステップ94）。たとえば，クライアント・コンピュータ1から送信されたフォント情報が図5に示すものであると，結局「MSゴシック，MS明朝，およびDFP行書体」が探し出されることとなる。

【0092】

このようにして，探し出されたフォント名がフォント・リストとなり（ステップ95），サーバ30からクライアント・コンピュータ1に送信されることとなる。

【0093】

図11から図14は，サーバ30の表示装置に表示されるウィンドウの一例を示している。これらの図を参照して，サーバ30にフォントを登録する処理について説明する。

【0094】



フォント登録モードとなると、サーバ30の表示装置には、図11に示すフォント登録ウインドウが現れる。

【0095】

フォント登録ウインドウには、次の各領域が含まれている。

【0096】

対応OS設定領域101

登録するフォントに対応するOSを、チェック・ボックスB1により選択する領域である。

【0097】

サービス設定領域102

登録するフォントが用いられるのに適したサービスを、チェック・ボックスB2により設定する領域である。

【0098】

フォント一覧領域103

OSおよびサービスを選択したあとにクリックされることにより、図12に示すフォント一覧ウインドウが現れる。

【0099】

新規フォント一覧領域104

クリックされることにより、図14に示す新規フォント一覧ウインドウが現れる。

【0100】

終了領域105

フォント登録処理を終了させるときにユーザによってクリックされる領域である。

【0101】

図12を参照して、フォント一覧ウインドウにおいては、フォント登録ウインドウにおいて設定したOSおよびサービスによって利用可能なフォントが領域106にフォントの名称およびそのフォントのサンプルごとに一覧表示される。また、フォントの名称に対応してチェック・ボックスB3も表示される。すでにサーバ

30に格納されているメニュー・ファイルおよびフォント・ファイルが利用されるのはいうまでもない。

【0102】

フォント一覧ウインドウには、追加領域107，削除領域108 および戻る領域109が含まれている。追加領域107 がクリックされると、図13に示すフォント追加ウインドウが表示装置に表示される。削除領域108 がクリックされると領域106に含まれるチェック・ボックスB 3においてチェックされたフォントが削除される。対応するフォント・ファイルからフォントが削除されることとなる。戻る領域109 がクリックされると、図11に示すフォント登録ウインドウが表示される。

【0103】

図13を参照して、フォント追加ウインドウには、サーバ30に格納されているフォントのうち、フォント登録ウインドウによって設定したOSおよびサービスでは利用しないとされているフォントのフォント名が一覧で領域110に表示される。このフォントの一覧は、フォント・ファイル0とフォント・ファイル1から3を用いて作成することができよう。追加するときには追加しようとするフォント名に対応するチェック・ボックスB 4がクリックされる。

【0104】

フォント追加ウインドウには、さらに追加領域111 および戻る領域109が含まれている。追加領域111 がクリックされることにより、チェック・ボックスB 4にチェックされたフォント名が設定されたOSおよびサービスに適したフォントとして対応するサービスのフォント・ファイルに格納される。戻る領域109 がクリックされると、図12に示すフォント一覧ウインドウが表示される。

【0105】

図14を参照して、新規フォント一覧ウインドウにおいては、サービスに登録されていないフォントが一覧で表示領域113に表示される。新規フォント一覧ウインドウには、さらに、更新領域112 および戻る領域109が含まれている。

【0106】

更新領域112 がクリックされることにより、チェック・ボックスB 5にチェックされたフォント名が新たにそのサービスにおいて利用されるように、フォント

・ファイルが再構成される。戻る領域109 がクリックされることにより、フォント登録ウインドウに戻る。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

画像編集システムの全体の構成を示している。

【図 2】

クライアント・コンピュータの電氣的構成を示すブロック図である。

【図 3】

サーバに格納されているメニュー・ファイルおよびフォント・ファイルを示している。

【図 4】

クライアント・コンピュータとサーバとの処理手順を示すフローチャートである。

【図 5】

クライアント情報を示している。

【図 6】

フォント・リストを示している。

【図 7】

クライアント・コンピュータの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

【図 8】

クライアント・コンピュータの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

【図 9】

編集情報ファイルを示している。

【図 1 0】

フォント・リスト作成処理の手順を示すフローチャートである。

【図 1 1】

サーバの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

【図 1 2】

サーバの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

【図 1 3】

サーバの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

【図 1 4】

サーバの表示装置に表示されるウインドウの一例を示している。

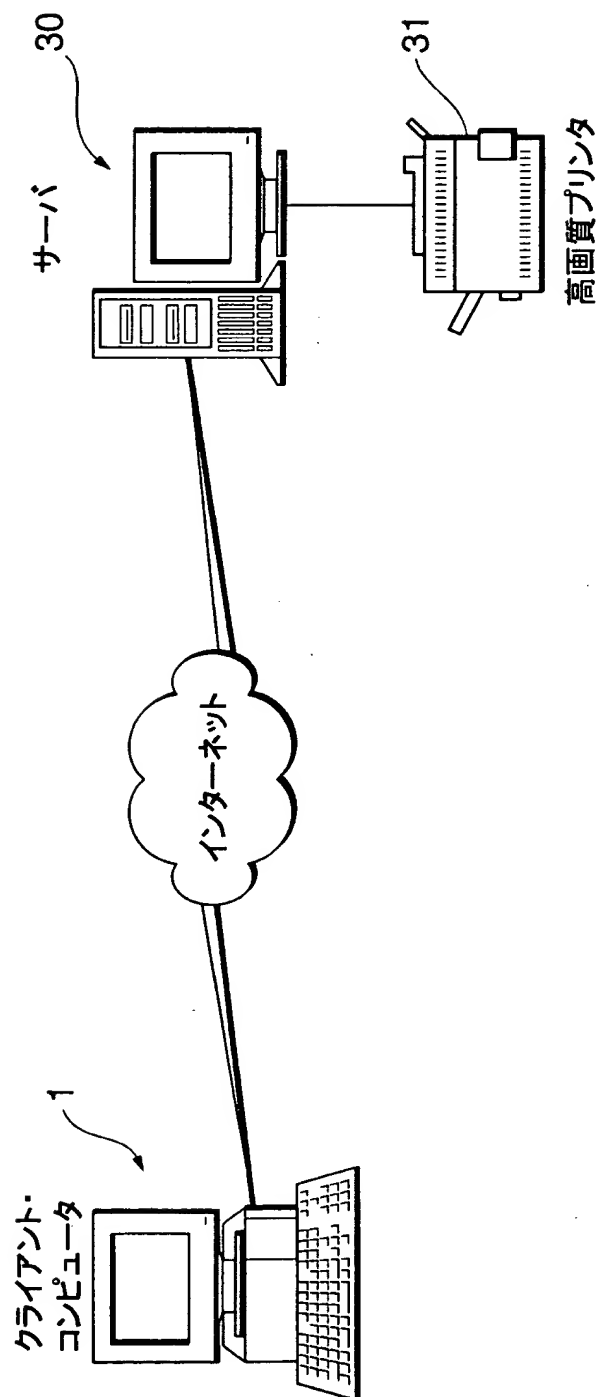
【符号の説明】

- 1 クライアント・コンピュータ
- 2 CPU
- 9 CD-ROMドライブ
- 11 モデム
- 14 表示装置
- 30 サーバ
- 31 高画質プリンタ

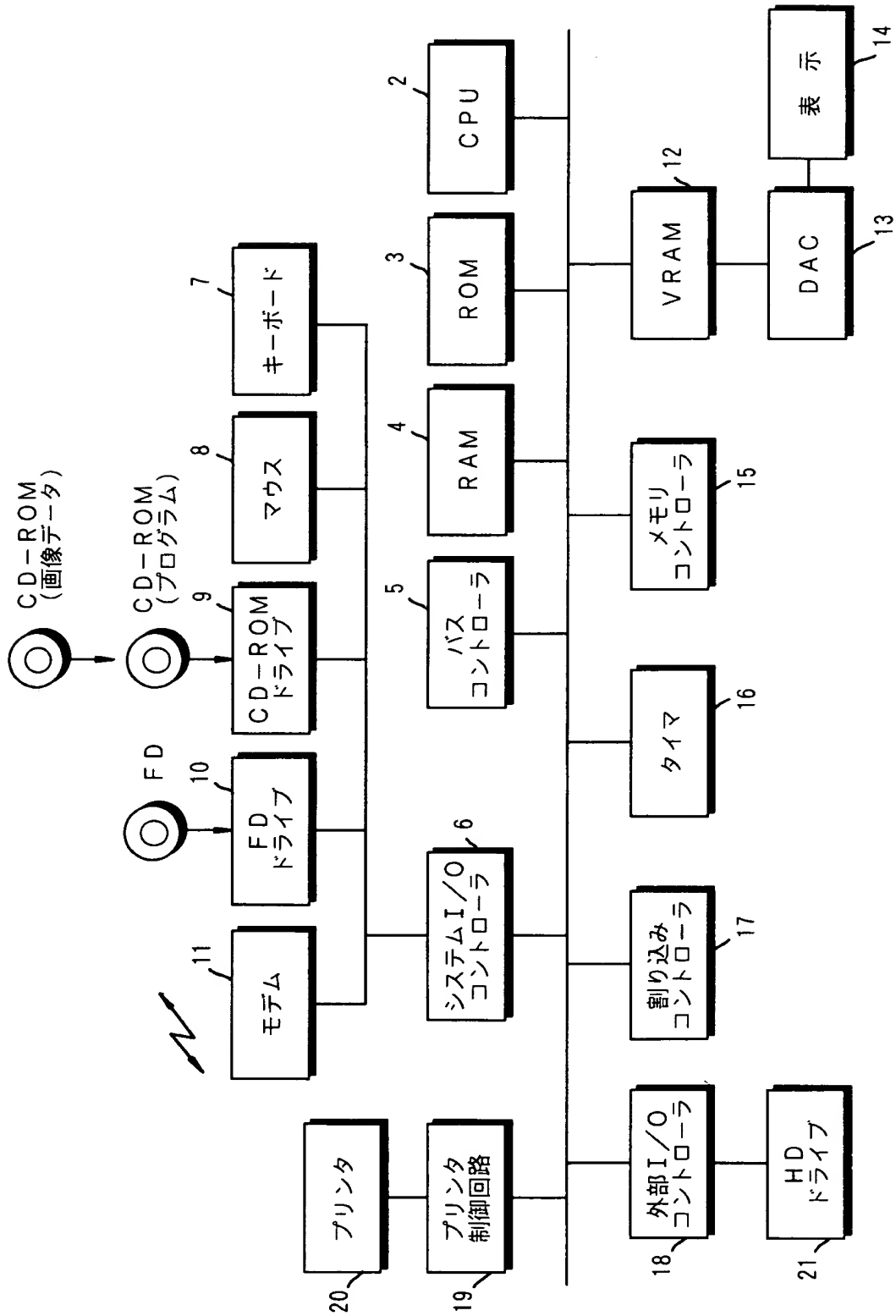
【書類名】

図面

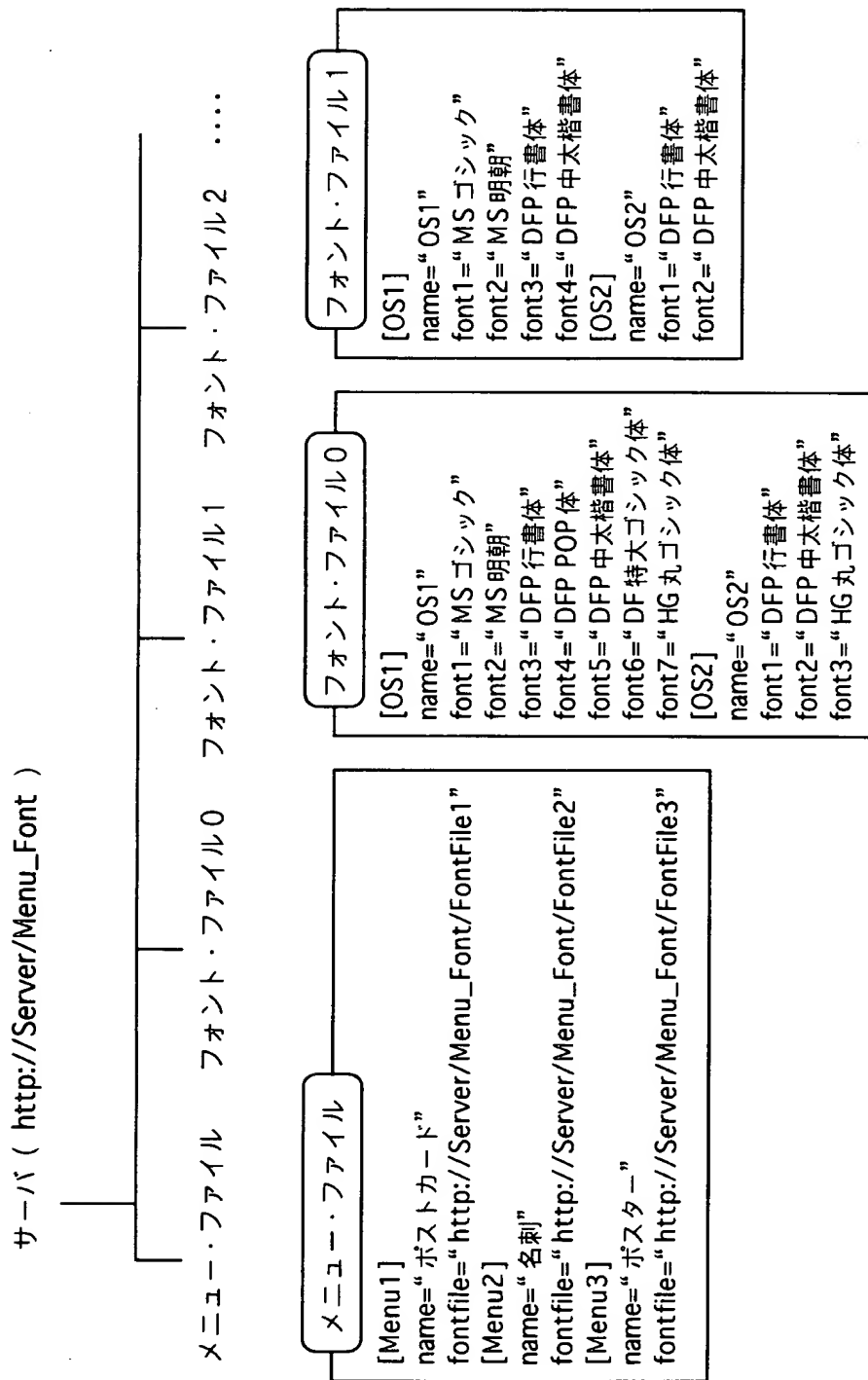
【図 1】



【図 2】

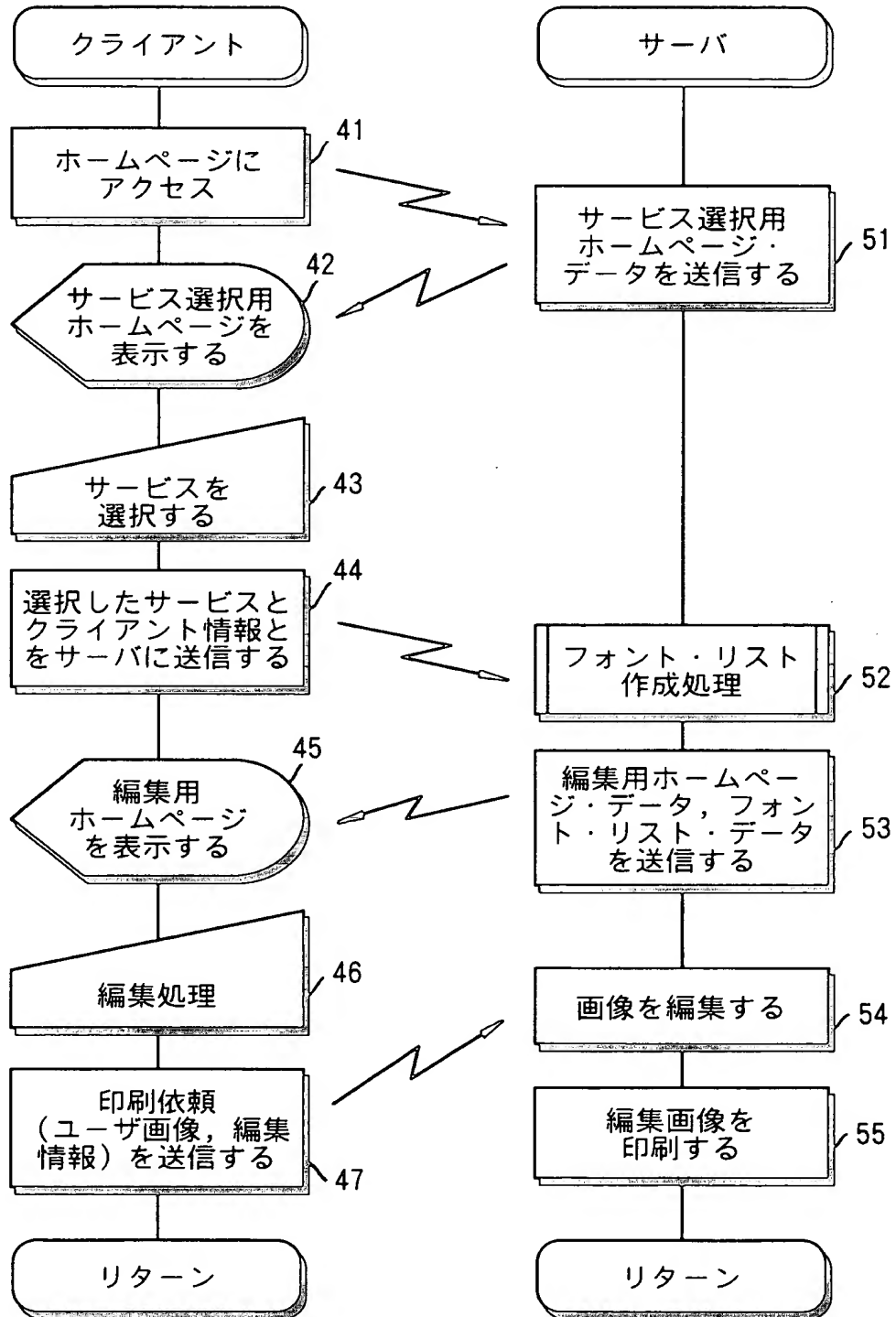


【図 3】



特 平 1 1 - 2 3 3 3 2 8

【図 4】



【図 5】

クライアント情報

OS 情報 : OS 1

フォント情報 : MS 明朝

MS ゴシック

DFP 細丸ゴシック

DFP 中丸ゴシック

DFP 行書体

DFP 丸文字体

【図 6】

フォント・リスト

MS 明朝

MS ゴシック

DFP 行書体

【図 7】

ポストカード編集 63

作成メニュー

ユーザ画像1 61

↓

ユーザ画像2

↓

差出人情報

↓

あいさつ文

↓

注文

HOME

BACK 62

HELP

拡大縮小 64

拡大 縮小

回転

左 右

65

【図 8】

あいさつ文入力ダイアログ

あいさつ文テキスト

あけましておめでとう
今年もよろしく!

71

フォント 72

フォント名 75

MSゴシック ▼
MS明朝
MSゴシック
DFP行書体

サイズ 74

19 ▼

☐ 斜体 ☐ 下線 76

横/縦書 77

横書

色変更

73

影情報

☐ 影をつける 79

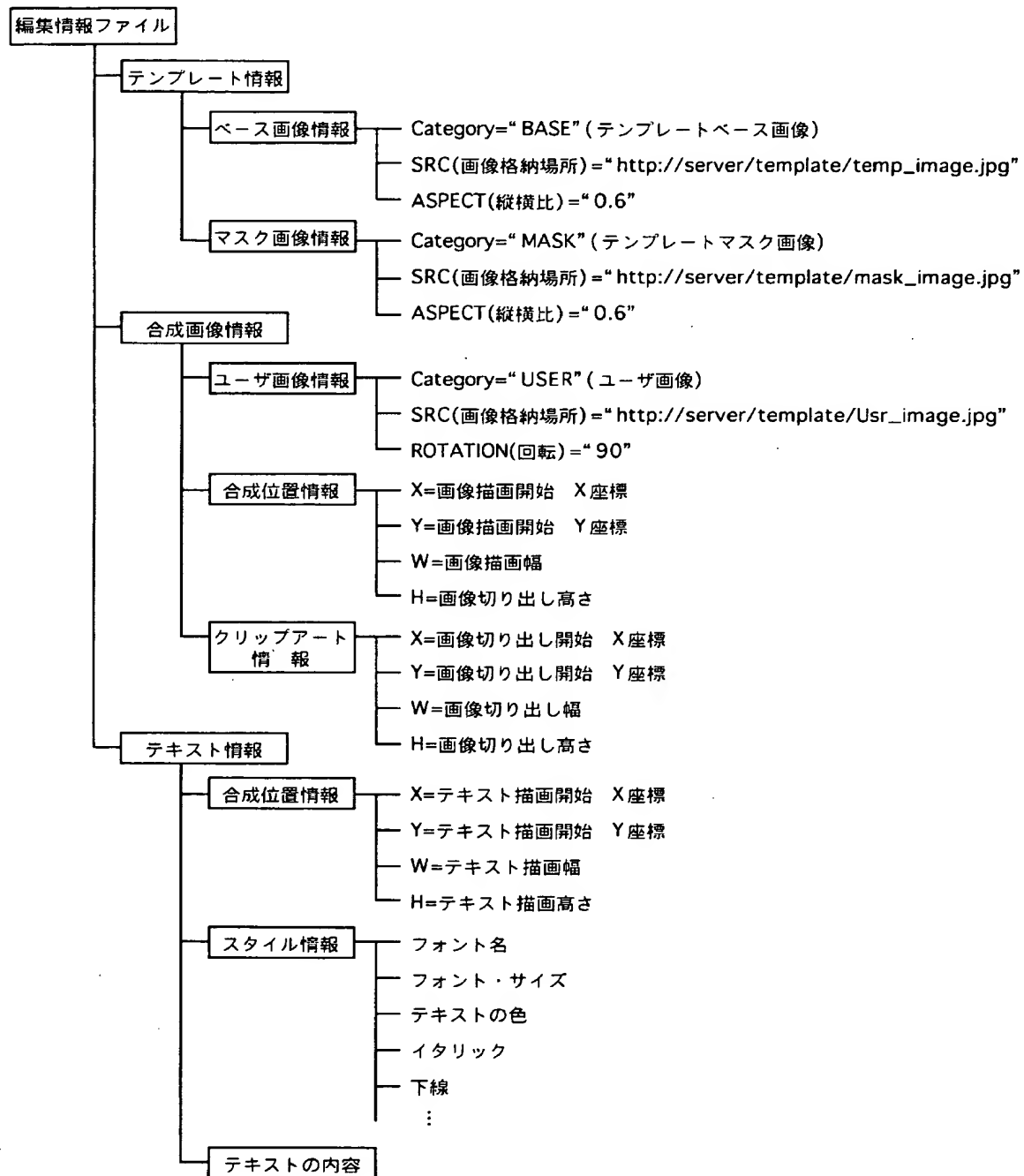
影色変更

78

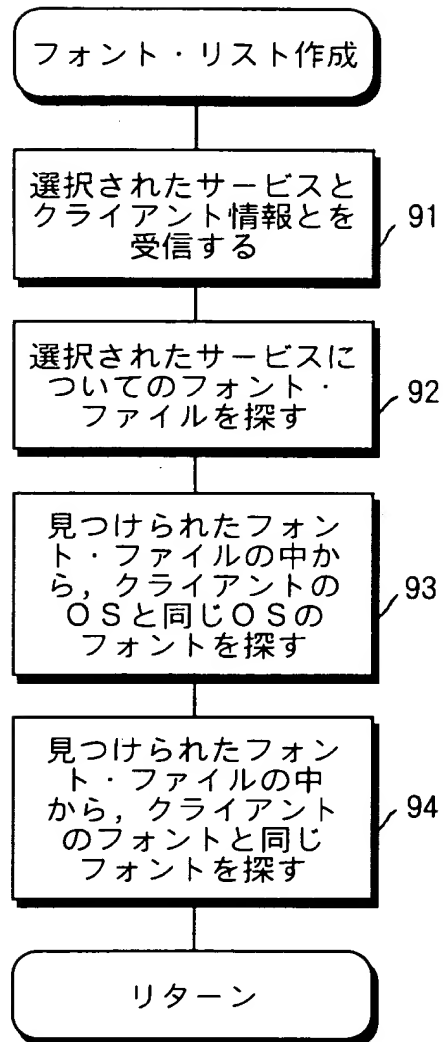
OK 80

キャンセル 81

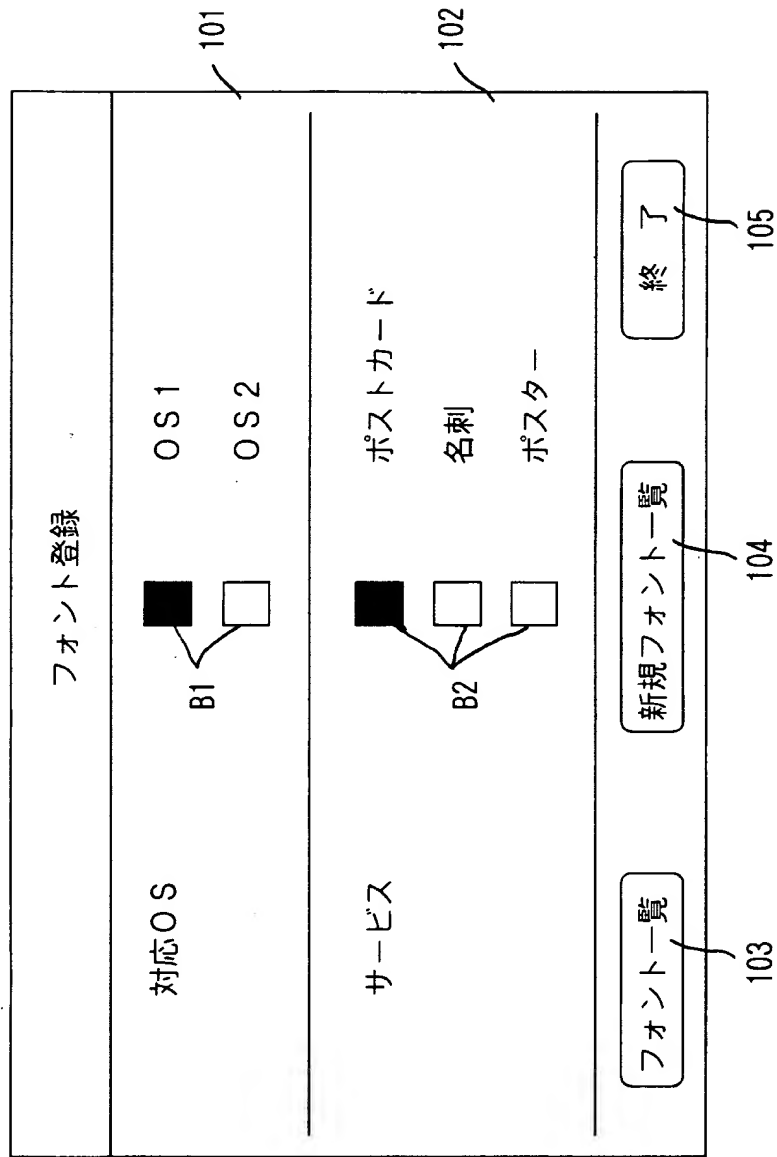
【図 9】



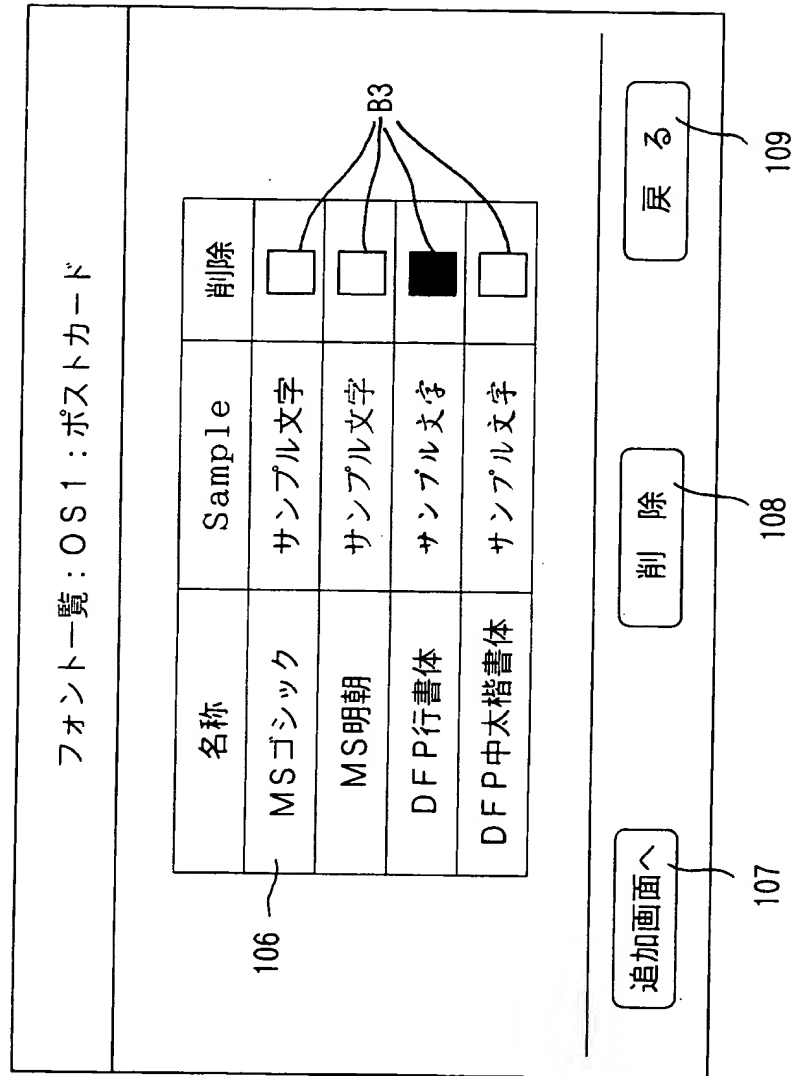
【図 1 0】



【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】

フォント追加：OS1：ポストカード

名称	Sample	削除
DFP POP体	サンプル文字	<input checked="" type="checkbox"/>
DF特大ゴシック体	サンプル文字	<input type="checkbox"/>
HG丸ゴシック体	サンプル文字	<input checked="" type="checkbox"/>

追 加

戻 る

【図 1 4】

新規フォント一覧：OS 1

名称	Sample	ポストカード	名刺	ポスター
イワタ行書	サンプル文字	<div>B5</div>		
イワタ丸ゴシック	サンプル文字		<div>113</div>	
イワタ明朝	サンプル文字			

更 新

戻 る

【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 クライアント・コンピュータ（コンピュータ）とサーバとの両方に用いることができるフォントを用いて編集画像を作成する。

【構成】 コンピュータのユーザが利用するサービスが選択される。選択したサービスとコンピュータのOS情報とコンピュータが利用可能なフォント情報を含むクライアント情報がサーバに送信される（ステップ44）。サーバにおいて、コンピュータが利用可能なフォントのリストを作成する（ステップ52）。作成したフォント・リストのデータと編集用ホーム・ページ・データとがコンピュータに送信される（ステップ53）。コンピュータのユーザは、送信されたフォント・リストの中から編集画像において用いるフォントを決定し、画像を編集する（ステップ46）。編集のための情報がサーバに送信され、編集画像が印刷される（ステップ47, 54, 55）。

【選択図】 図4

特平 1 1 - 2 3 3 3 2 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 2 0 1]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 1 4 日
[変更理由]	新規登録
住 所	神奈川県南足柄市中沼 2 1 0 番地
氏 名	富士写真フイルム株式会社